

# めぐみの森だより

2024年7月号



社会福祉法人 雲柱社 めぐみの森保育園

☎ 03-3480-4448

懇談会でもお話しさせていただきましたが、「ファミリーサポート講習の講師」について、改めて書かせていただきます。狛江市で実施している、ファミリーサポートとは、「育児のお手伝いをしたい方」「育児のお手伝いをしてほしい方」が会員になり、地域の中で助け合いながら子育てを行う有償のボランティア活動です。「育児のお手伝いをしたい方」は決まった講習を受けることで、お子さんを預かることができるようになります。今回その講習の講師を頼まれ、先日第1回目の講習を行ってきました。講習者は7名、自分の子育て、孫育ても終えた世代の方が多くいらっしゃいました。時間は10:00～12:00と2hたっぷりありましたが、自己紹介に30分も使ってしまう、最後の方は駆け足でなんとか時間内に終わられました。内容は割愛しますが、終わったところで講習者の方からこんな質問を受けました。“子どもたちのけんかの対応で、「ごめんね。」「いいよ。」ってよくあるのですが、「ごめんね。」は必ず言った方がいいのですか！”とのこと。

「ごめんね。」「いいよ。」なぜか子どもたちはこれがセット。嫌なことをされれば、「ごめんね。」を言ってほしい。「ごめんね。」を言ったら「いいよ。」を言ってほしい。相手が嫌な思いをしていたら、謝ることは大切だと思いますが、「ごめんね。」を強要することが、必ずしも必要だと私は思いません。お子さんによっても、状況によっても納得する方法が違うため、私に関わる時に大切にしているのは、それぞれの子どもがどんな表情をしているのかをよく観察し、お互いがどんな思いでいるのかをしっかりと伝え合えるように関わっています。以前のことで、4歳児クラスでけんかの仲裁をしました。しばらく傍で見えていましたが、お互いの主張があり2人だけでは解決が難しそうなので、Bさんの思いをAさんに伝えます。藤本「Bさん嫌だったんだけ。」A「・・・。」藤本「Bさん謝ってほしいんだけ。」A「・・・。」こんなやりとりを繰り返しているとしばらくして、AさんがBさんにむかって「へへへ。」と笑いかけました。すると、Bさんも「へへへ。」と笑い返し、けんかをしていた2人かいつの間にか笑い出し、また遊びはじめました。2人にとっては、「へへへ。」が「ごめんね。」であり、「いいよ。」でもあった。これは一つの例ですが、子どもたちにとっては、「ごめんね。いいよ。」の言葉が必要なのではなく、お互いがどんな気持ちなのか少しでも分かり合え、お互いが納得できる終わり方を見つけていくことが大切だと思います。それが「ごめんね。いいよ。」の言葉でもいいし、違っていい。一人として同じではないのと一緒に、けんかの仲直りの仕方も一つではなく、いろいろな方法があつていいと思います。そして時には仲直りができないことがあつてもいいと思います。そこに関わる大人が、子どもたちの思いに寄り添い、子どもたちと一緒に悩み、考え続けていくことが大切だと思います。そしてこういった日々の積み重ねが、今後の子どもたちにとって少しでも力になればと願っています。



記: 園長 藤本 紘子

## 今月のおすすめ紹介

毎年夏は、アイスの紹介をしているので、今年もアイスの紹介！！私の最寄りのスーパー『マルエツ』に売っている『ジャージー牛乳ソフト カフェラテ味』。定番商品なようで、必ずあるのでふとした時に買っています。コーヒーのアイスが全般好きで、一番のおすすめは軽井沢では有名な『ミカド珈琲のモカソフト』ですが、このカフェラテ味も、ミルクの中にコーヒーの味もしっかりあり、モカソフトを彷彿させます。結構大きいのですが、食べ出したらあっという間に食べ終わってしまいます。良ければお近くのスーパーをのぞいて探してもらえると嬉しいです。

そして、『ミカド珈琲』は、日本橋が本店だということを知りました。私もまだ行っていませんが、そちらも合わせていってみてください！！

